

【研究協議】

研究の視点

- 単元前半に自己の課題に挑戦する時間、後半にできるようになった技を生かしてグループで演技する場を設けたことは、個の学びを保証するとともに、技能の向上や自己の成長を成果として実感することにつながったか。

【個別最適な学び】

- アーティスティックマットとしてグループ演技を取り入れたことは、意見を出し合ったり教え合ったりしながら課題解決を目指す協働的な学びにつながったか。

【協働的な学び】

自 評

【視点1「個別最適な学び」について】

- ・ 単元の前半は、自己の課題を設定し、その解決に向けて場所や方法を選択して練習に取り組むようにした。同じ場所で練習している児童同士で遅延再生を見ながらアドバイスをしたり、補助をしたりして課題解決を目指した。特に、倒立に対して苦手意識を持っている児童が多く、壁倒立ができた児童は補助倒立に挑戦し、補助倒立ができた児童は倒立前転に挑戦するといったように、段階的に技に取り組ませた。

【視点2「協働的な学び」について】

- ・ 単元前半においても、同じ場所で練習している児童同士で補助をしたり、アドバイスをしたりして、課題解決を目指して練習に取り組んだ。後半のアーティスティックマットの練習では、グループ演技に取り入れたい技をグループのメンバーで助言をし合いながら練習したり、今できる技をより美しくできるようになるためにアドバイスをしたりした。演技構成もすべて児童で話し合って完成させた。
- ・ 事前授業では、カウントに合わせるために一つ一つの技が雑になってしまい、完成度が低くなってしまったことが課題として挙げられた。それを修正するために、今できる技の完成度を高めることも大事であることを伝え、技が美しくできるポイントを細かく伝えた。
- ・ ルーブリック評価を使っての意見の伝え方については、学級の朝の時間を活用し、何度か練習をした。具体的に理由も入れて伝えられるようになった。
- ・ ルーブリック評価は自分でも一番悩んだ。日野先生から他校のダンスや柔道の授業で使われたルーブリックを参考にさせていただいた。何度も日野先生に指導いただき、修正を重ねて今日の形になった。
- ・ 準備運動は新居浜ウォームアップの2番にマット運動に必要な柔軟やストレッチを取り入れた新居浜ウォームアップ泉川マット運動バージョンで行った。
- ・ 演技構成は、一人最低三種類の技を入れることを伝え、あとはすべて自分たちで考えさせた。演技構成ヒントカードと、アーティスティックマット演技構成カードを各班に渡し、8×16カウントを考えさせた。単元の最初の時間に若い先生方に協力してもらい、同じ曲を使って演技をし、それを参考動画として見せた。完成度は低かったが、児童たちはアーティスティックマットがどんなものなのかイメージすることはできた。
- ・ 上靴を履いている児童と脱いでいる児童がいたのは、指先まで意識しているのを見てもらうために脱いでもいいし、安全上、履いたままでもかまわないということで、児童自身に選択させた。